

Jネットの皆様へ

上越市総務企画部長 三上雄司

Jネットの皆さん、こんにちは。

黄金の穂を垂れていた稲の刈り取りが終わり、周囲の田んぼは畔端のコスモスが目立つようになりました。幸い今年は大きな風水害もなく、稲の作柄は二〇四（やや良）と良好であったようです。

農家に生まれ育った私にとって、ハサ木に架けられた稲束の、あのむせかえるような匂いは、今では懐かしい記憶のものになってしまいました。が、妙高山の「跳ね馬」にはじまり、高田公園の桜、桑取川のいさぎ、お堀のハス、そして錦に彩られた南葉山などなど：豊かな自然の中で、季節の移ろいを五感で感じながら暮らすことができる上越市は素晴らしいところだと、最近つくづく思います。

先頃市が実施した「住民満足度調査」によれば、約八割の方が上越市に愛着を持っておられ、半数以上の方が暮らしや

すいまちになってきたと感じておられる一方、雇用対策や福祉・医療分野などに対する満足度はまだ低いものであります。この結果は当然これからの市政に反映されていくこととなりますが、私がこの調査で関心を持ったのは、市の施策に対する市民の方々の意識と、それを企画・実行する私達市役所職員の認識とのギャップです。職員の方ではまだまだ足りないと思うのに、市民はもうこれ以上必要ないと思っている施策、逆に、職員はもう相当いい線にいつていると思っても、市民はまだ不足していると思っている施策……上越市を住みよいまちにしたいという目標は同じですが、「住みよいまち」として思い描いている姿が一致しているかどうか。行政に携わる一人として、改めて考えさせられるものでした。

今、上越市においても、周辺町村との合併が真剣に検討されています。上越市では、三和村、板倉町、清里村、牧村、浦川原村、大島村、安塚町、そして中郷村、名立町の十市町村で任意合併協議会を組織し、議会や住民代表の方々とともに昨年からの検討を行ってきました。今後、各市町村がこれまでの検討結果を基にそれぞれ住民の方々と十分に話し合い、合併の方向を定めていくことになる訳です。

市町村合併が大きくクローズアップされる要因となった国・地方の財政状況もさることながら、やはり住民の皆さんの最大の関心事は、合併によって生まれ育った地域の伝統や文化が守られていくのだろうか、そして、暮らしは良くなっていくのだろうか、ということでありましょう。合併の是非を問いかける首長をはじめ市町村の職員が、住民と意思を共有し、自分達のまちの将来像を夢のあるものとして描き示せるのが大きな鍵になっていきます。

平成十七年には、新しい上越市が誕生することになるかも知れませんが、こうした中で市長をはじめ私達職員は、Jネット会員の皆さんの「ふるさと上越」に対する熱い思いをしつかりと受け止め、これからも一生懸命頑張っていくかなければと決意を新たにしています。いつも温かいご支援と適切なアドバイスをく

ださる太田会長さんをはじめ役員の皆さん、会員の皆さん、そして東京での事務局を担当してくださっている和久井さんに心から感謝を申し上げますとともに、Jネットのますますのご発展をお祈り申し上げます。

